



鈴木雍人氏 撮影



No.34 (平成29年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール trch@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実な
積極的取り組み障害児者と
その家族を支援します

三本の白樺(その後)

社会福祉法人鶴風会理事長

中里 厚

寒かった冬を乗り越えてようやく暖かな季節になって参りました。

皆様には日頃より鶴風会の事業に多大な御理解御支援を頂き誠に有難くございます。

昨年、当施設では念願であった西一、東一病棟の大改修工事が無事終了、大変明るく、部屋には縦横にリフターが設置され快適な病室になりました。皆様方も是非見学に御来院頂ければと思います。

昨年は障害児者にとって信じられないような悲惨な事件が起こりました。

社会の一部には依然として障害児者に対して、否定的な意見があることを認識させられ、私も大変ショックを受けました。

しかし、子どもの施設には心暖かな支援者が大勢おります。

昨年当施設では、入所中の利用者さんが毎年楽しみに待っている病棟の「みどりの祭り」と近隣の人たちが楽しみにしている「チャリテイバザー」を十月の同日に行いました。当

1頁 理事長のご挨拶

2頁 後援会長のご挨拶

3頁 東京小児だより・西多摩だより

4頁 チャリテイバザー報告

5頁 オルフェの会チャリティコンサート

6頁 オルフェの会 収益金から寄贈される

7頁 オルフェの会に参加して

8頁 施設管理研究会コース参加報告

病棟改修工事完成のご報告

後援会だより・ブログ開設のお知らせ

ご寄付者名簿

日は快晴で世田谷にある都立高校の和太鼓部三十名が雷鳴のように景気よく演奏してくれました。演奏のあと、部員各自が太鼓を持って利用者さんのところに行き、一緒に太鼓を叩きました。その瞬間の高校生笑顔と利用者のかわす笑顔は最高のものでした。きっとこの高校生は将来立派な成人になるだろうと思えました。

また、毎年バザーに際し、品物集めに奔走し多大な努力をして頂いている方、そしてバザーで人気の焼き鳥を何年も続けて頂いている大勢の方達の協力があります。

都内の超有名私立中・高校の女生徒さん達からは、文化祭の事業の中から障害児のため有効に使ってくださいとメッセージが来ます。この中、高等学校の校長先生にお話しを伺ったところ、最近の教育は「知育」ばかり優先されている中で、何か忘れていた物があると「徳育」について日頃生徒さん達に熱心に教えているそうです。

過日、故五島瑳智子会長の書かれた著書「自分に水をやる」を読まれた御高齢の方から病院のために役立ててくださいと過分な御協力を頂きました。大切なお嬢様を長い闘病生活の末、若十三二歳の若さで亡くされました。現在車椅子の生活ですが自分の八十八

歳の記念にとご寄付を戴き、お嬢様の残された重画の絵本をお送り戴きました。有難うございました。

当鶴風会の施設は大勢の利用者さんの親族や、東邦大学の法人、職員、卒業生の諸先輩後輩やその他大勢の皆様方に御支援頂き心より感謝いたしております。今後とも御支援をよろしくお願い申し上げます。

私事ですが、以前この「はぐくむ」に我が家の庭にある三本の白樺の木について書きました。三本目の木（三郎と名付けてます）は根本に蟻の巣が出来て空洞化し発育がとまり倒れそうなので、何とか三本を括りあつてお互いに助け合つてきました。しかし昨年一番太く支えの中心になる木（二郎と名付けています）が春から枯れ始めました。植木屋さんは「今年の春まで様子を見ましよう」ということですが、驚いたことに「一番先に根本が空洞化した三郎にはすでに新芽が出てきているそうです。」

現在当施設で私どもが一番頭を抱えていることは、高齢化した利用者の御両親や御兄弟の問題です。白樺の二郎に倒れられると大きな支えがなくなります。障害を抱えた多くの方たちの将来を今後どのようにすればよいのか、何とか高齢の御両親達を安心させる施設や方策が一日も早く確立されることが望まれます。

（表紙の写真は北海道根釧原野に舞つ鶴です。鶴風会のため、鈴木雍人氏に特別寄稿して戴きました。）

社会福祉法人鶴風会への 寄附金集めの困難さを実感 ― 後援会一年目の感想 ―

社会福祉法人鶴風会後援会長

青木 継稔

皆様お元気ですか。後援会長の青木継稔です。後援会長をお引き受けて、一年余が過ぎようとしています。後援会の仕事は、入院入所児・者、通院通所児・者およびそのご家族への支援、働く多職種の方々への支援、病院・施設のハード面やソフト面の充実のための支援等があります。具体的には、「如何に寄附金を集めるか」が、最も重要な仕事と心得ておりました。

この一年の実感は、『寄附金集め』がとても大変であり、これは片手間では困難であることを実感しました。当初、後援会長は何をすべきかを庶務課長の石井昌之氏を中心に事務局の方々から色々教えて頂きました。中里理事長からもご指導頂きました。

『寄附金集め』は、関係者の皆様へこの「はぐくむ」という本法人広報紙（約四千部）に郵便局の振込用紙（ご寄附申し込み送金用）を入れてお送りして、振り込んで頂くということでした。銀行振込みは、ご寄附頂いた方のご芳名の確認が難しいので郵便局の振込用紙が大変に良いということを教えて頂きました。ご支援下さる方は多くいらつしやう、また、毎回あるいは年一回等で継続して、ご寄附下さる方もかなりいらつしやることに、大変感動致しました。しかし、広報紙をお送り

させて頂いている数パーセントの方しか、ご寄附を頂いていないことにも大変驚きました。ご寄附を集めることの難しさにとても気持ちが落ち込みました。反省点や改善点は、「はぐくむ」広報紙をお送りする際に、毎回同じような文章でも良いから、ご寄附へのお願いの趣意書と郵便局振込用紙を入れること、ご寄附頂いた方々に、重症心身障害児者の描いた絵や図柄を八ガキカシールにして領収書や礼状とともに感謝の意を表わすことなどであり、役員の方からも指摘されました。社会福祉法人へのご寄附は所得控除の対象となることも知って頂く必要があります。さらに、支援者の増加を図るための名簿の充実が必要不可欠なのです。しかし、個人情報保護の法律もあり、大変に難しいことです。賛同者・支援者を募る方法があれば教えて頂きたいと思っております。

後援会の重要な任務に、さらに、バザーの開催やチャリティコンサート「オルフェの会」の開催等がありますが、紙面の都合上、次回にさせて頂きます。

皆様の温かなお気持ちの継続的なご支援をお願い申し上げます。

施設の統合と 名称変更の お知らせ

このたび東京小児療育病院（旧肢体不自由児施設）と、みどり愛育園（旧重症心身障害児施設）を統合いたしました。

今後は主として重症心身障害児者の施設として運営してまいります。

なお、施設名称は東京小児療育病院といたしました。

今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十九年四月

社会福祉法人 鶴風会

理事長 中里 厚

東京小児療育病院

院長 椎木 俊秀



東京小児療育病院だより

東京小児療育病院院長

椎木 俊秀

昨年十二月二十日に、長年の懸案だった一階病棟の大規模改修が完了し、新しい生活が始まりました。一年以上に渡り利用者、家族の皆さまには多大なご迷惑をおかけしましたが、幸い大きな事故もなく、病棟運営や病床稼働率もそれほど低下することなく終了できました。今後も快適な生活をして頂けるようさらに改善を続けたいと思っています。

肢体不自由児を主な対象とする医療型障害児入所施設、療養介護事業所であった東一病棟を昨年七月にみどり愛育園と同じように重症心身障害児者（重症児者）を主な対象とする病棟に変更したことも大きな出来事でした。肢体不自由児の退所が相次ぎ、新たな入所者の確保が困難な上に、入所者のほとんどが重症児者の方なので、実態に合わせました。そしてこの一月から病院全体のベッドを一床増やし一七三床にしました。四月からは東京小児療育病院とみどり愛育園を統合して東京小児療育病院とし、ベッドも一七六床に増やし、七月からは長期入所ベッド一四五床、短期入所ベッド二十七床、治療ベッド四床になる予定です。

引き続き長期入所者の方々の安全、安心、健康、生活の質の向上を目指す取り組みを強めていきたいと思っています。さらに在宅で生活していらっしゃる方々の支援についても従来の短期入所、通所、訪問看護以外にも事業を拡大していく方向で検討を進めています。二十九年度は居宅訪問型保育事業を開始します。医療的ケア等で保育園、幼稚園、通所などに通えない幼児のために家庭に訪問し保育する事業です。働く親御さんの支援のために

も価値ある事業だと考えます。NICO、一般病棟から退院できないでいる方の在宅移行支援も行っていく必要があります。さらに放課後等デイサービスやグループホームの検討もしたいと思っています。

診療面ではオーダーリングシステムが十二月から稼働を始めました。平成三十年年度には電子カルテを全面導入する予定です。障害者雇用も重視して取り組んだことのひとつです。他施設との連携も重要です。当法人は東邦大学の前身である帝国女子医学専門学校の前生方が立ち上げた施設ですので、是非とも東邦大学との連携を強化させて頂ければと願っています。日頃、気管切開や胃瘻造設などの外科的な処置をお願いする先がなかなか確保しづらい、重症患者の入院先が見つけにくいなどで困っていることが多いので、診療面での連携の強化を図れたら診療の大幅な向上が期待できると思います。

組織運営、人材育成でも着実な成果を上げています。理念に基づき基本指針、運営方針を決め、その具体化として中長期計画、BSOなどを作成して事業を進めています。専門教育の充実と共に指導層の研修システムも少しずつ整ってきています。また、施設の現在と将来を担う人材育成を最重要課題の一つとして取り組んでいきたいと考えています。

私達は障害児者を含めてすべての人々の尊厳を守り、幸せに共生できる多様性に満ちた社会の実現に貢献したいと願っています。よって昨年七月二十六日に起きた津久井やまゆり園での痛ましい事件に対して、当院としても直ちに「私達の決意」、「私達の夢」という声明を発表し当院の見解を表明しました（詳細は当院のホームページをご覧ください）。利用者、家族の方への支援を充実させると共に社会的責務も果たせる施設へと成長していきたいと思っています。

西多摩だより

西多摩療育支援センター長

鶴岡 広

西多摩療育支援センターでは、昨年四月に施行された「障害者差別解消法」に対して、少しずつではありますが、障害の特徴や場面に応じて生じる困難さを取り除く調整をしています。

法制定の経緯は、日本が平成十九年に障害者権利条約に署名し、平成二十六年一月に批准しました。障害者権利条約は、障害者に対する差別的禁止や尊厳と権利を義務付けています。そのため国内法の整備として昨年の四月、障害者への差別解消をめざした障害者差別解消法が施行されることになりました。

この法律は、障害による差別を解消し、「誰もが分け隔てなく共生する社会を実現すること」を目的としています。人はひとりひとり違った個性を持っています。どんな人々も個性を尊重され、過ごしやすい世の中になれば理想ですが、特定の個性や心身の症状を持っている人にとって生きづらい状況がまだまだ残っているのが社会の現状です。

そんな現状を変えていくために重要なのが、「合理的配慮」という考え方です。たとえ障害のある方であっても、適切な配慮を受けることができれば、自分の力をより発揮しやすくなり、日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

WORLD REPORT ON DISABILITY (WHO) の巻頭に於いてホーキンス教授は、「障害は成功の障害になる必要はありません。私は実際に私の大人の生活のすべてのために運動ニューロン疾患を抱えています。それで

私は天体物理学と幸せな家庭生活において顕著なキャリアを持つことを妨げていません。」と述べています。

合理的な配慮を行う努力をすることが、コミュニケーション、お互いが理解や新しい技術の発展を促すと考えます。例えば、コンピュータの専門家は、ホーキンス教授が、講義や論文を作ったり、さまざまな聴衆とコミュニケーションをとることを可能にするコミュニケーション支援システムとスピーチンセサイザーを造りました。

昨年の秋、西多摩療育支援センターで、診療所の利用者アンケートを行い、センターの障壁を聞き取りました。そして、手始めとして情報処理が苦手な障害児者のために、診療所待合の煩雑な掲示を外し、情報による混乱を引き起こさないように整え、心配りをする試みをしました。私たちは、心身障害に対するさらなる理解を深め、対話し、少しずつではありますが、身近なものから利用していただきやすいセンター創りに努めます。ご支援、ご鞭撻をよろしく願います。



※WORLD REPORT ON DISABILITY
http://www.who.int/disabilities/world_report/2011/en/

チャリティバザー報告

総務部庶務課主任

堀内 政彦

秋晴れに澄み上がった空の中、小気味良い振動とともに伝わる豪快な太鼓の音。それを笑顔で眺める利用者さんご家族の方々。おや、今日は入所・通所の施設行事である、みどり祭りの開催日かな？しかし、会場内で買い物を楽しむお客様もあります。

そうです、平成二十八年十月二十三日(日)のチャリティバザーは、みどり祭りと
の合同開催となりました。

オープニングは、みどり祭りでお馴染みの都立深沢高校和太鼓部の方々が打ち鳴らす和太鼓演奏から始まります。すでにお買い物を楽しんでいたお客様たちも、ふと手を止めて聞き入っていました。演奏後には、利用者さんが和太鼓部の方と一緒に太鼓を叩く姿がありました。

さて、和やかなみどり祭り会場とは対照的なチャリティバザー会場は、例年より少し早めのオープンで、会場はヒートアップ！いつもは駐車場である会場が、人と物で溢れていました。

買い物やオープニングセレモニーがひと段落するとお昼時となり、今度は模擬店が賑わいます。

今年のみどり祭りと合同なこともあり、模擬店数も食数もいつもより多めに準備しておりました。しかしまさかの売り切れ続出。実はこれには合同開催の思わぬメリットが関係していました。

例年のチャリティバザーは、利用者さんご家族にも売り場スタッフとしてご協力をいただいております。

しかし、今年のみどり祭りと合同開催。「子供たちとお祭りを楽しみたい」と、いつもは「スタッフ」としての参加を、「お客様」として参加していただきました。保護者の方からは、チャリティバザーをゆっくりと楽しむことができた、喜びのお言葉をいただけただけ良かったと思います。

そのこともあり、多めに用意した模擬店の食数でしたが、さらに多くのお客様がいらっ
しゃったようです。
二十九年度は模擬店をさらに充実させてお
迎えたいと思います。

閉会式には職員も所属するフラダンスグループが、素敵フラダンスを披露してくれました。

地域の方と、利用者さん、そしてスタッフが一緒に楽しく大変にぎやかなお祭りになりました。

このお祭りに、会社・団体等ならびに個人様から多くの御協賛を頂き、二二〇万円を超える収益となりました。

この収益金は、施設改修等の資金に充てさせていただきます。

ご支援賜りました皆様に深く感謝申し上げますと共に、地域の皆様と利用者さんを繋ぐこのお祭りを、二十九年度もにぎやかに開催したいと考えております。



オルフェの会

チャリティコンサート

総務部庶務課 岩井 秀彦

平成二十八年十二月四日(日) グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール香雲翠雲の間に於いて社会福祉法人鶴風会後援会主催のチャリティコンサート「オルフェの会」が開催されました。

第一部では、ご来賓を代表して炭山嘉伸先生(東邦大学理事長)にご挨拶を戴き、その後椎木院長から当法人の施設活動状況の報告がありました。

第二部のコンサートでは、ザ・クラブスミーツ センス オフ エッセンスにより、ヴェルディのオペラ椿姫から「乾杯の歌」、モーツアルトのオペラ魔笛から「何と力強い魔法の笛よ」、ミュージカルキャッツから「メモリー」などを披露していただき、最後に全員で、「今日の日はさようなら」を合唱し、本年も盛会裡のうちに終わりました。



「オルフェの会」

収益金から寄贈

総務部庶務課長 石井 昌之

平成二十八年十二月四日(日)開催しました、チャリティコンサート「オルフェの会」の収益金から、東京小児療育病院および西多摩療育支援センターの利用者に、このたび鶴風会後援会を通じて寄贈品を戴きました。東京小児療育病院は、利用者の絵画を投影する「専用プロジェクター」、行事風景を記録する「4Kレデオカメラと編集ソフト」。また、西多摩療育支援センターは、行事に使用する音響設備「自立型スピーカーとワイヤレスマイク一式」を寄贈いただきました。寄贈された機器は、利用者への療育支援の向上に活用してまいります。

最後に、これまでも多くの方からチャリティコンサート「オルフェの会」にご賛同・ご支援を頂きましたこと、心より感謝いたします。引き続き、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



オルフェの会に参加して

元同愛記念病院小児科部長
向山 徳子

私は毎年十二月に開催されるオルフェの会に参加するのを楽しみにしています。オルフェの会は鶴風会後援会主催のチャリティコンサートです。平成二十八年は十二月四日(日)にグランドプリンスホテル新高輪国際館パミールに於いて開催されました。

第一部においては例年鶴風会施設である東京小児療育病院・みどり愛育園・西多摩医療センターの紹介があります。映像を交えながら施設の概要やスタッフの方々の仕事を詳しく紹介して頂きますが、その献身的な姿には頭が下がる思いです。自分自身では体を動かすこともままならない患者さんに常に寄り添い介護にあたられる姿を見て、チャリティコンサートに参加することで少しでも協力出来ればと思つて毎年参加させて頂いています。

一部が終わると会食の時間です。一つの円卓に十人位ずつ座りますが、大きい会場に二十卓前後のテーブルが並びます。まるで結婚式の披露宴のような美味しい西洋料理のフルコースが続きます。チャリティでこんなに美味しい食事をいただくことに申し訳ないような気持ちになりますが、いつも完成しています。東邦大学医学部昭和四十三年卒業の同級生も毎年十名前後参加させて頂いています。丁度ミニクラス会の雰囲気ですが、旧交を温めお互いの無事を確認しあっています。

第二部はコンサートの時間です。ピアノ、バイオリン、合唱、民族音楽等々毎年趣向を

凝らしたコンサートに癒されます。平成二十八年は二期会の前澤善一氏の開会挨拶と歌曲独唱の後、テノール歌手高野二郎氏が率いるユニットでオペラアリア、ミュージカルソングなど十六曲も披露していただき、プロの歌声を堪能いたしました。コンサートの締めくくりには例年全員で歌を合唱してほのぼのとした気持ちになります。これだけの企画運営にはスタッフの皆さま方さぞご苦労の多いことと思います。

私は医学部学生時代に東京小児療育病院で実習を受けました。重症心身障害児の診療、看護、介護のみならず、日常の支援の在り方に真摯に向かい合っている姿に感銘を受け小児科医として働くことを決意しました。専門は異なりますが、鶴風会施設に常々何か出来ることはないかと思いつつ、オルフェの会に参加させて頂いています。これからも陰ながら応援しております。



平成二十八年度競輪公益資金補助事業 全国重症心身障害児者施設職員研修会 「施設管理研究コース」参加報告 総務部庶務課庶務係 佐藤 俊一

本研修は、「重症心身障害児者施設の管理・運営に関する理論と実際を学び、その資質の向上を図り、併せて重症心身障害児(者)の福祉の増進に寄与する」ことを目的に、全国一二五施設の事務(局・部)長及び事務担当者を対象として、年に一度開催されています。

今年度は、前述の目的に応じ、重症心身障害児者施設の管理・運営に関して、四つの講演と全体討議、分散討議(一部当法人の現状について事前アンケートを基に報告)を通じて理論と実際を学びました。

実際のプログラムは、行政からの大きな枠組みを捉えることに始まり、①法人の運営②施設の運営・管理③職場の運営へと現場レベルで考えられるように構成されており、重心施設へ入職して三年足らずの私にとっても、理解しやすい内容でした。

講演一：「行政説明」

講演二：「平成三十年度
福祉・医療の改編にどう向かうか」

講演三：「人材確保の秘訣」

全体討議：「防犯対策および
防災対策について」

分散討議：「各施設の実際の取組み」

講演四：「この元気に仕事をするには」

講演四の終わりに、その場に同席していた他施設職員およそ六名と横一列になって手をつなぎ、掛け声なしに同じタイミングでジャンプするという実習もしました。

合図なしでお互いにそれぞれのタイミングを察する、もしくは顔を見合わせて息を合わせるなど、自ずと互いの状態を理解するためにかかしのアクションをしなければならず、チームで働くことの原理原則を理解するための学びとして印象に残りました。

お互いが能動的になれるよう、目的共有と他者理解は常に意識しなければならぬと感じました。

全国から重心施設が一堂に会し課題共有することは、他施設を知るだけでなく日頃の業務を見直す上でも非常に有意義であると感じました。

また、各内容も、直近の最重要課題の一つである、人材確保に関するものや相模原の事件、熊本地震を踏まえた防犯・防災対策に関するもの等、どれも時流に沿った話題が盛り込まれており、目的に見合った構成でした。

本研修に参加させて頂いたことで、施設の管理・運営の一端を担う者としての気付きや日常業務を俯瞰して考え、改善に繋げるための材料を得られたように思います。法人として、今後も継続して参加していくことが重要であると感じた三日間でした。



病棟改修工事完成のご報告

総務部庶務課長 石井 昌之

東京都による障害者（児）施設整備事業補助金の内示を受けて、東京小児療育病院・みどり愛育園では、平成二十七年十月から病棟一階及び外壁・屋上の大規模な改修工事を実施してきました。このたび、平成二十八年十二月に工事が完成しましたのでご報告いたします。

本工事の期間中、一階の利用者の皆様には約一年半の長きに渡り病棟移動にご協力を頂きありがとうございました。同月二十日には大きな事故もなく元の病棟へ戻ることが出来ました。工事期間中、全ての利用者や父母の皆様には騒音や振動など、いつもと大きく異なる生活環境にてご不便やご迷惑をお掛けしました。大変申し訳ございませんでした。完成するまでの長期に渡りご理解・ご協力を頂きましたことに深く感謝いたします。また工事期間中も休むことなく病棟を支えてくれた職員等の皆様にも、無事に完成の日を迎えることが出来ましたことに御礼を申し上げます。

平成六年に建替えられた病棟は、既に二十数年が経過し、施設の各所では老朽化が顕著となってきました。今回の病棟改修工事は、今後も病棟として機能を維持する目的で病棟の内外装を改修する工事を計画したものです。特に病棟内の改修では、ナースステーションを病棟中心に置くレイアウトに変更し、利用者に迅速な対応が可能となる導線を確保しました。さらに一部増築を行うことで病室

の定員を六名までとし、居室空間を統一しました。さらに利用者の安全確保や職員の腰痛対策として、各室や日常生活するプレイルーム、浴室の脱衣室や利用者トイレの各所には、利用者を安全に移乗するための介護用リフトをこれまでよりも増設しました。その他にもLED照明や空調設備の入替、床を木目調にして、より明るく快適な空間となるよう改修を行いました。また、外壁と屋上では建物内への浸水を防ぐ目的とする補修工事を行い、屋上全面に防水シートを貼りました。改修後の屋上は、これまでどおりに利用者が散歩も出来る場所に戻りました。

今後も病棟二階の施設整備や電子カルテの導入による設備整備をはじめとする様々な課題が山積しております。また、近い将来には本館やリハビリ棟、通所棟や職員宿舎など、老朽化した施設全体の建替に向けた検討が不可欠となります。今後とも、施設整備に係る費用の積み立てなどを適正に行いながら、円滑な施設・設備更新に努めてまいります。さらに利用者へ安定したサービスが継続して提供出来るように、職員一同、力を合わせて健全な事業運営を心掛けてまいります。皆様には引き続き、ご支援・ご協力を頂きますようお願いを致します。



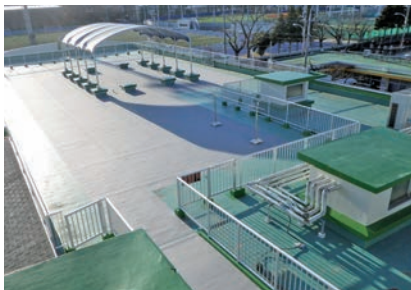
■ 東1病棟 ■



東1病棟 ナースステーション



東1病棟 リフター



病棟 屋上

■ 西1病棟 ■



西1病棟 ナースステーション



西1病棟 病室



西1病棟 浴室

後援会だより



社会福祉法人 鶴風会

本明登志子先生を偲んで

昭和二十五年卒 二十一回生
評議員 小川 昭子



敬愛する本明登志子先生が、一月十六日に急逝されました。私は驚き、落胆し、しばらく言葉が出ませんでした。

した。御高齢でありながら昨年十一月の会合にも出席されていたお姿が思い出され信じられませんでした。先生は御卒業後、二十年程母校の衛生学教室に在籍され、後輩のため教鞭を執られました。その御多忙の傍、内科、小児科を御開業（始は夕方から）昭和二十五年〜平成二十七年迄地域医療に盡されました。また当病院の創設の苦しい時代から理事として携われ、理事長としての重責も負って下さいました。頭脳明晰、正義感強く、女性の優しさを兼ね備えた素晴らしい先輩でした。心から御冥福をお祈り申し上げます。尚、私事になりますが先生の夫君は心理学者であられました。偶然にも私の夫も同じでした。戦後間もなく、国からの依頼で、大学生の知能テストを依頼され、一緒に仕事をしましたと申してあります。大学や心理学の専攻分野は異なりましたが、登志

子先生ご夫妻は、少しだけ年下の私共二人を可愛がって下さいました。過日、夫の書齋から、日本心理学者辞典、というぶ厚い本を見付け、久しぶりにばらばらと開いていた時、寛先生と夫の名前を発見し改めて感動致しました。今頃は、天国で登志子先生を混えて三人で語らい私共を見守っていて下さると信じています。大先輩方や五島瑛智子先生の遺志を継いで、多くの立派な後輩の先生方と力を合わせて、当病院の発展に盡くそうと改めて決心致しました。

登志子先生、安らかにお休み下さい。

叙勲、受賞の

御報告

山本 みどりの先生

昭和二十三年卒 十九回生
瑞玉双光章 平成二十六年秋
市川市（学校保健功労）



御開業 山本内科小児科医院
昭和二十五年三月〜現在

石北 寿子先生

昭和二十五年卒 二十一回生
瑞玉双光章 平成二十八年四月二十九日
渋川市（学校保健功労）



御開業 石北小児科医院
昭和三十八年〜現在

二宮 文乃先生

昭和二十五年卒 二十一回生
東洋医学賞 平成二十八年六月



学術賞 平成二十年六月



御開業 青木クリニック
全漢方・皮膚科 熱海市
昭和三十八年〜現在

二宮先生は、超御多忙の開業の傍、漢方を研究され、多くの賞を受けられていらっしゃいます。

前記のお三方は、長い間、社会福祉法人鶴風会に御理解、御支援下さっております。同窓生一同でお慶び致します。

私たちの活動をお伝えします

東京小児療育病院 看護師ブログ にじいろ日記



看護師ブログ『にじいろ日記』開設のお知らせ

法人ホームページのリニューアルに伴い、看護師ブログ『にじいろ日記』を開設しました。院内での日常や当院の看護師育成の様子などを随時掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.kakufuh.com>

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成28年7月～平成29年2月
167名(五十音順・敬称略)

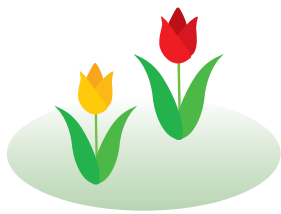
相川 丞・青木万智子・青木りう子
赤星 恵子・朝川 孝幸・朝山 浩行
足高 毅・東 恵子・足立 嘉子
安部 浩一・阿部美代子・安部 良治
石北 寿子・石田 哲朗・石田 秀子
井上 和子・内田 幸子・馬嶋 順子
海野 俊雄・梅田 嘉明・梅田みほ子
大久保陽一郎・大島 眞理・太田 宏樹
大塚 慶子・岡松 眞二・小川 房子
荻原 泰・小原 明・小原 桂子
柁原 宏久・勝見 千明・加藤 聡彦
加藤奈津子・金澤 昭・金森 勝士
金親 正敏・鎌田 直子・上岡 謙夫
上岡 正子・神谷 英治・河村 裕子
河村 康明・菅野 寿子・久保 初美
倉根 理一・黒瀬 嘉幸・桑原 利章
月花 亮・小泉 蓉子・小泉 美子
向山 徳子・志鳥眞理子・小林 寅喆
齋藤 登・齋藤 学・先山 隆司
佐々木徹郎・佐藤 清子・佐藤 重雄
佐藤 麗子・澤村 幸子・三登 和代
島田 長人・島田 敏雄・嶋田 寛子
島野 光・清水 友理・志村 博基
洲鎌久美子・杉本 寛子・杉本 元信
鈴木力子・鈴木 信介・鈴木 秀明
炭山 嘉伸・芹澤 滋幹・高槻 義夫
高月 誠・高橋 啓・高橋 孝彦
高村 和夫・高村 安子・武居 正郎

竹中 幸宏・田中 克明・田中 淳子
田中 忠二・田沼 博・田部 秀山
月本 一郎・月本 伸子・堤 俊一郎
長岡 貞雄・中川 俊郎・長澤 貞継
中谷 尚登・中村 映子・並木 温
西井 華子・西原 憲二・西宮 常代
橋口 玲子・蜂矢 正彦・笕地 美介
早原 千鶴・早川 浩市・原田 孝
原田千鶴子・原山 国秀・土方 淳
平田 徹・平山玖美子・福田 静子
本間 義章・松原 龍弘・松本 英亜
丸山 和子・水落 笙子・水野 惇子
水野 孝子・三宅 三・宮崎 元伸
村川 公一・村川世津子・村國 均
飯国紀一郎・飯国 弥生・飯国洋一郎
森 克彦・森 紘子・森澤 豊
守田 洋・森山 照彦・矢野 春雄
矢吹 壮・山口 美穂・山田耕一郎
山田 輝代・山村 憲・山本 温子
山本 高裕・湯澤 俊・吉川 芳登
吉川 芳登・吉田 友英・吉田 宏重
吉田 正己・吉永 克己・吉永 久子
吉見 梓・渡邊 弘恵・阿部美代子
伊藤 正俊・伊藤 元博・奥住 一雄
海老根東雄・向山 秀樹・出口 久次
青木 継稔・浅川 恭行・猪俣賢一郎
島津和貴男
青梅市重症心身障害児(者)を守る会
日本女医会 東京都支部連合会
八王子建物管理㈱
東京小児療育病院・みどり愛育園父母の会
鶴風会後援会

社会福祉法人鶴風会へ

ご寄付者ご芳名(法人団体個人)
平成28年7月～平成28年12月
55名(五十音順・敬称略)

青木 悦・青木 徹・浅川 和子
朝川 孝幸・厚地 良彦・飯田美保子
石川稚佳子・石川 元子・伊藤 圭子
内野 正文・宇野 進・梅田 寛子
大関 忍・大関 豊・大高 究
大場 圭子・大場 幸延・梶山 祥子
加藤 葉子・金森 勝士・唐澤 重徳
川越 昭信・川村 貞夫・齋藤 彌
四宮 雅子・渋谷 昌良・獅山富美子
杉村 康知・鈴木 喜子・鈴木荘太郎
高木 芳夫・高月 誠・武居 正郎
武田 朋子・多胡 博雄・舘野 昭彦
谷藤 龍正・東條 賢一・豊田 道子
中野 敏江・中野 紀子・長浜 ヒサ
西村 千秋・二瓶 浩一・野沢 明子
畑 靖子・林 晴男・牧田みどり
松山 潤一・三登 和代・宮地 文子
室谷 栄満・横山 祐作・吉見 梓
桜蔭学園 生徒会



編集後記

中庭に植えられた記念樹のしだれ桜が花開く季節になると同時に、当法人にも新たに採用されたフレッシュな顔ぶれが揃いました。

今年度は、組織改編や大幅な人事異動もありました。

新規採用の職員とともに、このしだれ桜のように、法人の幹となり、そして枝となり、日々成長し、やがて大きな花を開かせられるように協力していきましょう。

今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

編集委員会

